

九州国立博物館 せいわぶんらく 清和文楽特別公演

現在、熊本に残る唯一の にんぎょうじょうりしばい せいわぶんらく 人形浄瑠璃芝居「清和文楽」

江戸時代末期の嘉永年間(1850年頃)、熊本県山都町(旧・清和村)を訪れた淡路の人形芝居一座から人形を買い、その技術を得て誕生した『清和文楽』。地域の娯楽としてその技術は受け継がれ、昭和35年には、文楽人形の技術保持者が熊本県無形文化財に指定されました。時代と共に公演数は減少しましたが、昭和54年、清和文楽人形芝居が熊本県重要無形文化財に指定されたのを機に、「文楽の里」をキャッチフレーズにした活動で清和文楽の再生を図ります。

平成4年、清和文楽の伝承と地域の活性化を目的に九州唯一の人形浄瑠璃専用の劇場「清和文楽館」が完成。毎年約200回の公演に加え、アイルランド、イタリア、韓国などの海外公演や全国各地での出張公演も行っています。

演目

雪おんな

原作 小泉八雲

脚色 半藤一利

【あらすじ】

若い木こり巳之吉は、年老いた茂作と薪木取りからの帰り道、吹雪にあっってしまう。たどり着いた船頭小屋で、茂作は「雪おんな」の言い伝えを巳之吉に話し、いつしか眠りにつく二人。だが、茂作に覆いかぶさる真っ白い着物の女に巳之吉が気づく。その女は、「私を見たことを人に話したならば殺す」と巳之吉に言い渡し雪の中に消えて行く。茂作はすでに息絶えており、あまりの恐ろしさに巳之吉は氣を失うのであった。数年後、巳之吉は、山仕事の帰り道で偶然出会ったお雪という娘と結ばれる。色白で気だても良く、娘が生まれた後も、美しさは変わらなかった。互いに思いやる日々の中、ある日、巳之吉は土産に赤い櫛を買ってくる。髪にさし、更に色香を増すお雪の姿を見てるうちに、巳之吉は吹雪の夜にあった雪おんなの顔を思い出す。お雪の顔は、雪おんなとうり二つであった。その夜の話を聞かせてとせがむお雪に、巳之吉は重い口を開いてしまう。眼光鋭く雪おんなへと変身したお雪。一度は巳之吉に覆いかぶさるものの、母としての情にほだされて、娘の養育をきつく言い置くと、お雪は降る雪の中へ消えて行くのだった。

開催日程 2017年

10月7日(土)

※夜間開館日
(1日2回公演)

場所／九州国立博物館
ミュージアムホール(1階)

1回目 開場／13:00
開演／13:30

2回目 開場／15:30
開演／16:00

(公演時間約60分)

観覧無料

※事前申込不要
※各回先着280名
※当日11:30より、各回の
座席指定整理券を配布
します。

主催

九州国立博物館

〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2
<http://www.kyuhaku.jp>

お問い合わせ/NTTハローダイヤル
(050) 5542-8600 (8:00~20:00)
*時間、場所、内容等が予告なく変更になる
場合がありますのでご了承ください。